慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	坂口昂著 概観世界史潮
Sub Title	
Author	高橋, 誠一郎
Publisher	慶應義塾理財学会
Publication year	1920
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.14, No.9 (1920. 9) ,p.1334(150)- 1338(154)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	新刊紹介
Genre	Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19200901-0150

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

に進み、更に單純なる紹介に止まらず、批評に入らうとする目的を以て、著作されたやうに見受けられる。第一卷は簡單な序論の外に、ギルド社會主義の創生と同主義の建設に就ての二章から成り、創生編に於ては、オーウエン、モーリスにまで遡り、集産主義や、新社會主義とギルド社會主義との關係を説明し、建設編に於てはギルドが如何にして構成されるかギルド社會主義の實際運動は如何なる狀態に居るかと云ふ問題を説明して居る。

室伏氏の新著は幾冊を以て完結するものであるか、之を知らない。第一卷だけでは、未完成品たるを免かれないが、從來我國に飜譯紹介されたギルド社會主義の研究で、比較的纒まつて居るのは、コールの「産業に於ける自治」位のものであらう。其れでも如何にして此主義が起つたものであるか、他の社會主義と如何なる關係があるかと云ふやうな歴史的研究に缺けて居る。さうすれば邦文で此新思想を徹底的に研究しやうとする人々に取つては、室伏氏の新著は缺く可からざるものと云はざるを得ない。行文は流石に專門家の手に成れることゝて、頗る流暢であつて些の澁滯を認めず、引證亦極めて博く、進んでギルド社會主義を研究しやうと志す人に大なる援助を與へる。室伏氏が新思想の紹介に努力せられる熱心は吾人の多とする所である。

（堀江　歸一）

坂口昂博士著　**概觀世界史潮**

菊版七七六頁定價金五圓五十錢
東京岩波書店發行

坂口博士が本書を世に問へる動機は、其の序文に言へるが如く、世界の改造期に際會する現下の讀書界に取りて特に缺乏せる或るものを滿す可き必要の切實に感ぜられたるに在り。即ち正確なる知識に基きたる世界史の敎養是なり。博士は世態事變の眞相にして誤解せられ、談論屢々架空に馳せて事實の正鵠を失し易く、文壇社交共に尙ほ未だ大なる時代に照應する光彩を發揮するに至らざるは、實に如上の缺陷與つて頗る大なるものありと做せり。而して博士は遠く希臘の國民的文明より、近く世界戰役及び世界改造に至る世界史を特に文化的潮流の裡に且つ辿り且つ眺めんとせるなり。洵に我が知識階級が刻下の渇を醫す可き好著にして「多年模範的文化典籍の上梓に從事」せる岩波書店は茲に又た其の出版界に對する誇の一を加へたり。

斯くの如く長大なる時代を貫き廣大なる地域に亘れる概觀の全般を通じて、之を檢察せんことは吾人の到底企及し得る所にあらず、唯だ吾人は博士が該博深遠なる研究に信頼して自家の知見を啓かんとする者なるが、今些か此の大著の一部に對する二三の私見を披瀝し、謹んで博士の敎示を乞はんとす。乃ち吾人は第十七講「十七八世紀に於ける思潮」に就きて觀るに、先づ甚だ些末なることながら博士は

ホッブスの著書は因つて一名「レヴィアザン」（一六五一年版行）と名づけられて居る（三六六頁）。

と記されたるが Leviathan は本題にして、一名之れを The Matter, Forme, and Power of A Common-wealth Ecclesiastical and Civil. と名づけられたるなり。其の發音も「リヴァイアザン」なる可し。更らに博士は Hobbes に關し

上述の彼の著書は即ちこの民主的革命に對する一個の抗議なり（同頁）。

と論斷せり。Hobbes が君主制に對して多大なる同情を有し、議會の主權を否認したるは明かなる事實なるも、彼れが中樞の學説は單に法律の制限を受くることなき不可爭不可分なる至高

の權力が或る集合體若しくは個人に存す可きことを必要とするものにして、君主政治、寡頭政治及び民主政治に對して等しく適用せらる可きことを認めざる可らず。

博士はマーカンテイリズムを譯して「重商（商國）主義」と爲し、其の根本思想は

貨幣即ち富なり、一國の富は金銀の所有に基く、隨てこの富を獲得する方法は唯だ商業のみに在ると謂ふ點に存する。（三六九頁。）

と解せられたり。是れ其の譯字の不當と共に、併せて其の根本思想を正解せるものに非ざるを示すが如し。尙ほコルベールを以て經濟上極端なる保護政策を執れるものと觀ることも亦た今日の研究を以てする時は不當なりと言はざる可らず（三七一頁）。三七四頁に掲げたるジョン・ローの意見亦た其の正解を得ざるに似せり。又たジョン・ロックの著「民政論」に就き

彼れは先づ自然の狀態を假定した。而してこの狀態は自然法に支配されるものであつて、しかも或る亂暴もの、又は侵入者があつて、これが爲めに自然の秩序を破壞されることがある。因て彼はすべての個人が自己の生命、自由、財產を保護するために申合せて政府を作り、或る一人に全體の權限を委任したのであると考へて居る。こゝまではかの「レヴイアザン」の著者ホッブスと同說である（三八〇頁）。

と說かるゝと雖も、而も此の點に於てロックは決してホッブズと同說に非ず。ロックの所謂「自然の狀態」は常にホッブズの想像するが如く「爭鬪の狀態」に非ずして平和と理性との支配する狀態なり。自然の法則は總べての理性ある動物に對して明白なりと雖も、人は自己の案件に對して之れを適用する場合には偏頗たるの虞あり。是に於て乎、國家は彼れ等の爲めに正非の標準たる可き法規を設け、法廷及び其の宣告を執行するの權力を備ふるなり。加之ならず、ロックの學說の後半に對する博士の解釋も亦た不正確なるが如し。

次いで博士はヒュームに論及し、其の代表的著作を掲げて「人間悟性」及び「英國史」と爲せり（三八一頁）。歷史家たるヒュームの代表作として「英國史」を擧ぐると共に、哲學者としてのヒュームが代表的大著を掲ぐ可しとせば、恐らくは「人間本性論」を以てす可きものならん。「人間悟性論」は曩に述べたるロックが最大なる著作なり。尤もヒュームの論文集中に收められたる An Enquiry concerning Human Understanding（舊名 Philosophical Essays concerning Human Understanding.）なる短篇あることは事實なれども、吾人は彼れが哲學上の最大產物としては依然其の少壯時代に成りし「人間本性論」を擧げざるを得ざるなり。博士は

「既にクロンウエルの時、イギリスの第一回航海律が發せられ云々（三九〇頁）

と說かれたるも、英國最初の航海律制定は一千三百八十一年 Richard 二世の治世に在り。而して普通同律の名によりて呼ばるゝものは一千六百六十年 Charles 二世の法律なり。

博士又た曰く

英國の學者ウイリアム・ペチーは論じて曰く「富の父は勞働なり、富の母は土壤なり」と。これ新思想の先驅であつた。（三九二頁）。

と。此の譯文は些か原文と遠ざかれるも、意義に於ては大差なし。而も博士は此の文章がペチイによりて其の著の如何なる箇所に於て、如何なる體樣に於て表明せられたるかを知るの要あり。斯くの如きは當時ペチイに獨自なる思想に非ず、又た時流を拔ける卓見にも非ず、彼れは唯だ當時一般に行はれたる一種の格言を引用符とも見る可き括弧中に引用して、刑罰法を論じたるなり。「レッセ・フェール」の標語を下したる者も穿鑿好きなる獨逸人の考證を待つまでもな

く、特に重自然學派（フイジオクラート）と爲す可きに非ざる可し。アダム・スミスの Wealth of Nations を譯して「富國策」と爲すは僅かに此の著の全表題を讀める者と雖も敢てせざる所なる可し。（三九三頁其の他）。博士はチュルゴーを以てケネーの弟子と爲せるも（三九四頁）、是れ亦た異論あるを免れざる可し。チュルゴーはケネーの友人なりしも、而もフイジオクラートの圈外に立てるのみならず、兩者の學説は頗る重要なる點に於て相違せり。

以上は唯だ第十七講の一部のみに就きて謂へるものにして、其の比較的枝葉の點とも稱さば稱し得可きものなるが、而もマーカンチリズムの時代よりして漸次自由主義の經濟思想を產むに至りし原因及び經過に就きても猶ほ重要なるものを逸せるに似たり。吾人は讀み了りて隔靴搔痒の感なきを得ず。本著の全部に就きて精細なる批評を行ふが如きは、今日の余が時と力と而して殊に本欄の紙數の能し得る所に非ざるなり。

高橋誠一郎

前號（第十四卷第八號）目次（大正九年八月號）

論説

◎續契約解除論（一）　神戸寅次郎
◎佛國大革命の主因は經濟的なり　占部百太郎
◎遺產相續法と土地の分配（二、完）　瀧本誠一
◎科學的經營法と勞働組合　堀江歸一
◎デヴィッド・ヒュームの「貿易平衡」論（二）　高橋誠一郎

雜錄

◎英國勞働問題に關する新刊書　堀江歸一
◎ラッセルの思想とウヰリアム・ジェームス（一）　奥井復太郎
◎マルクス派の國家觀（二）　加田忠臣

新刊紹介

◎高畠素之譯資本論　第一卷　小泉信三
◎金澤庄三郎著言語に映じたる原人の思想　野村兼太郎
◎財部靜治著國勢調査問題講話　園乾治
◎野村兼太郎著經濟的文化と哲學　高橋誠一郎

◎一冊定價金四拾五錢　郵稅金壹錢五厘
◎半ケ年分金貳圓六拾錢
◎一ケ年分金四圓八拾五錢　郵稅共

◎編輯及び事務に關する一切の用件は發行所宛
◎營業に關する用件は發賣元宛
◎原稿締切期日は發行の前月十日限

大正九年八月廿一日印刷納本
大正九年九月一日發行　毎月一回一日發行

三田學會雜誌
禁轉載
第十四卷第九號

編輯兼發行者　東京市芝區三田二丁目二番地慶應義塾內　江田範保
印刷者　東京市赤坂區新町五丁目四十二番地　金子鐵五郎
印刷所　東京市赤坂區新町五丁目四十二番地　金子活版所

東京市神田區表神保町三番地
發賣元　株式會社　東京堂書店
電話　神田　振替　東京
（三〇六〇番）（三〇六二番）（三〇六四番）（三〇六五番）（三〇六六番）（三〇六七番）

◎尚ほ本誌は全國各市雜誌店にて販賣す

發行所　東京芝三田慶應義塾內　理財學會